

論壇

見えた将来の働き方

コロナ禍のような危機が起きると世の中の変化のスピードは速くなるようだ。

少し前であるテレビ番組に出演したとき、そこでお話を伺った大手私鉄の社長の発言が印象的だった。「コロナ禍によって首都圏で鉄道を利用する人が大幅に減少した。コロナ禍が解消しても、乗客は完全には戻らないだろう。大変なことではあるが、よく考えてみれば少子高齢化によっていずれ乗客が減っていくことは分かっていた。ただ、10年以上かけてそうなると思っていたことが、コロナ禍

伊藤 元重

学習院大教授(国際経済学)

であったという間に起きてしまった」というコメントだ。

同じような話はビジネスの現場のあちこちで聞く。鉄道の利用がコロナ禍で減ったのは、在宅勤務やオンライン会議が増えたからだ。コロナ禍が収束したらまた会社が集まって仕事をするようになるだろう。それでも、昔のように

将来の働き方が見えてきたような面もある。

コロナ禍の中で加速化している動きは他にも多くある。気候変動問題への関心が高まる中で温室効果ガスの排出をゼロにしようというゼロカーボンの動きが速くなっていることもその一つだ。米国や欧州がポストコロナの経済回復の

世の中の変化加速

オフィスにすべての人が戻ってくるわけではない。在宅勤務やオンライン会議はそれなりに定着するはずだ。毎日みんなが会社に集まって一緒に仕事をするという生活パターンは20世紀型の働き方だろう。21世紀に入っても20年以上がたってしまったが、コロナ禍で

起爆剤としてゼロカーボン政策を加速化している。その中で自動車の電気化は進んでいるし、風力など再生可能エネルギーへの投資も拡大している。こうしたゼロカーボンへの動きもいずればそちらの方向に動くものであるとは考えられていたが、コロナ禍がそのスピ

ードを速めている。

世の中の動きが速くなることは、多くの人にとって心地よいものではない。変化に対応するため私たちは自身の生活スタイルを変えてはいけないからだ。できることならこれまでと同じようにずっと生活できればよいと考えている人も多いだろう。

生活スタイルも対応

残念ながらそれは難しい。少子高齢化の中で人口構造は大きく変わっている。私たちに変化がなければ、地球環境はどんどん悪化し、地球はいずれ人間が住むことのできない所になってしまう。また、大都市圏で満員電車で毎日詰め込まれている生活が幸せであるとはとても言えない。

こうした問題に対応するためには、私たちは生活スタイルを変えていく必要がある。技術の力をもっと活用することも必要だろう。そうした変化の必要性を実感することが大切でもある。コロナ禍は私たちにこうした変化の現実性を認識させる上で重要な意味を持っている。

乗客が激減する中で高齢化へ向けた対応を急がざるをえない鉄道経営者や、在宅勤務で空になったオフィスをみて働き方の変化を模索する経営者と同じように、私たち一人一人がコロナ禍の中で経験したさまざまな変化の中から、私たちの社会の未来の姿を想像することが求められる。それは決して悪いだけの未来ではないはずだ。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。